

平成28年度 部局自己評価報告書（29：学際科学フロンティア研究所）

Ⅲ 部局別評価指標(第2期中期計画取組分)

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限：(1)～(2)合わせて7,000字以内

(1)全学の第2期中期目標・中期計画への貢献及び部局の第2期中期目標・中期計画の達成に向けた特色ある取組等の成果(㉓)

1. 先端的学際研究の推進と学内学際研究発掘

平成27年度は、本所において先端的学際研究を推進する学際研究促進プログラム（所内公募）1件、学内において学際研究を推進するための学際研究支援プログラム4件（本所外の学内公募）、挑戦的な萌芽的研究を学内から発掘するための領域創成研究プログラム18件（本所を含む学内公募）が実施された。また、新領域創成研究部若手教員の学際研究には研究費や海外渡航の支援を行った。これらの成果として本所全体で延べ242報（内、新領域創成研究部若手教員は198報）の論文を発表した。本部主導で企画された学際研究重点プログラムの実施部局として、5件の課題採択と運営に協力した。

国際交流の視点からは、本所教員の国際会議への出席が179件（内26件が招待講演）、共同研究の実施のための海外渡航は34件（内、1件はフィールドワーク）であった。（なお、これらの数字には、Ⅱ-1(1)で記述した研究所独自の若手研究者（教員）の海外共同研究1件及び研究集会派遣支援分の14件が含まれる。）

2. 若手研究者の育成支援（尚志プログラム）

平成27年度に国際公募を実施し、平成28年度からあらたに助教7名を採用した。平成28年4月1日現在の学内若手教員は准教授2名、助教49名である。上述したように、これらの若手教員には研究費、研究スペース、海外派遣等の研究支援を行っている。平成27年度に新領域創成研究部准教授が学内他部局教授に昇任した他、助教1名が本学大学院薬学研究科助教（承継職員）に転出が決定した。

新領域創成研究部若手教員1名は学内公募による領域創成研究に採択され、別途支援している。

また、北海道大学及び名古屋大学と共同で実施している「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業—連携型博士研究人材総合育成システムの構築」の育成対象者5名を採択し、3大学連携の自立的かつ国際的に活躍しうる人材育成を開始した。

国際高等研究教育院（平成28年4月から学際高等研究教育院に名称変更）の博士・修士教育院生と上記の若手教員の連携によるセミナー、研究会、コロキウムなどの活動（養賢プロジェクト）は、18件であった。

3. 若手研究者の国際舞台進出支援

新領域創成研究部所属若手教員の平成27年度の国際会議での発表が138件（内、17件は招待講演）、共同研究のための海外渡航が24件であった。また、1名を米国メリーランド大学に、1名を米国MITに、若手研究人材育成コンソーシアム構築事業で延べ11名を海外研究機関に派遣した。（Ⅱ1(1)に記載）

4. 異分野融合・学際分野における国際的頭脳循環のネットワークとハブの形成

Ⅱ1(1)でドイツと日本の主要大学間ネットワークであるHeKKSaGOnに関する取り組み及び

フランス・リヨン、ドイツ・カールスルーエの研究機関との拠点形成活動を記載。この内、フランス・リヨンとのネットワークではELyT Labのワークショップを平成28年度に開催予定。

(2)「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策及びミッションの再定義(強み・特色・社会的役割)の実現に向けた取組等の成果(㉔)

「Ⅱ 1 里見ビジョン及び全学中期目標・中期計画において、全部局での実施が望まれる計画への取組(1)国際レベルの人材育成に関する取組(㉗)及びグローバルな修学環境の整備」及び「Ⅲ(1)全学の第2期中期目標・中期計画への貢献及び部局の第2期中期目標・中期計画の達成に向けた特色ある取組等の進捗状況・成果」で説明済み。